

2026 ほほえみ広場 ～共に考えよう共生社会～ 開催趣意書

「ほほえみ広場」は平成23年度から当連合会が京都市の委託を受けて、京都市主導の下、梅小路公園にてバザーや模擬店、授産製品の販売。また、屋外ステージでは障害者週間のポスター入賞表彰や障害者等によるパフォーマンスなどを実施してまいりました。障害のある方が作成した商品などを自ら販売することにより、就労意欲を高める効果があり、また、お客様とコミュニケーションをとり、障害のある方を身近に感じていただくことができ、さらにはステージでのパフォーマンスを通じて、多くの方に障害のある方に対する理解を深めていただけるイベントとして各当事者団体が非常に重要な事業と位置づけ、取り組んでまいりました。また、京都市において身体・知的・精神の三障害が一堂に会して実施する数少ないイベントであり、障害当事者の相互交流の場、市民との交流の場としての役割も担っておりました。

しかしながら、令和4年度の京都市予算では多くの障害保健福祉関連事業、特に補助制度やイベント等についての縮減・廃止といった過去に類を見ないほどの見直しが行われ、長年取り組んで参りました「ほほえみ広場」が廃止となりました。

こうした交流の場や市民啓発の場が失われていく中で、我々、当事者団体として何ができるのか考えた結果、やはり、これまで先人たちが繋いできたイベントを我々の代で終わらせるのではなく、改革の機会ととらえ、これまでの京都市主導ではなく、身体・知的・精神・親の会など当事者団体としての特色を活かした、未来へ繋ぐ新たなイベントとして、令和4年度から障害福祉団体が一丸となって取り組んでいるところです。

本年度も引き続き障害者の社会参加、共生社会の実現を目指し、回を重ねるごとにより進化・発展できるよう、令和8年10月17日（土）KBS ホールにて「2026 ほほえみ広場 ～共に考えよう共生社会～」を開催いたします。

多くの市民に障害や障害者を知っていただくことで、障害に対する理解が深まり、共生社会の実現に向け、わずかでも前進することを願い取り組んで参ります。

また、本イベント実施の費用については、障害のある方を積極的に雇用している「京都はあとふる企業」や本イベントにご賛同いただいた企業からの協賛金や助成金、別添「京都市地域の福祉活動応援事業（めばえーる事業）」を通じての寄付金（クラウドファンディング）により賄うこととしております。

令和 8年 8月吉日

公益社団法人京都市身体障害者団体連合会